経済文化情報

学部の講義科目としては，経済文化と経済英語がある。経済文化は，英米・独仏・中露に区分され，各国の経済と文化（および両者に関連する分野）の諸相を扱うものである。歴史・思想・文学・言語・芸術などのうちから特定のテーマを講義するので，年度・担当者により内容は変化する。経済英語は，経済情報を伝える英語の学習を目的としたものである。これには，たとえば，経済と経済学に関する内容の文献・雑誌記事の講読などが含まれる。なお，「経済の日本語」は学部留学生を対象に経済分野における日本語力の強化を目的としたもので，当該分野に関する新聞記事や専門基礎文献の日本語を扱う。

大学院の講義科目は，各国経済思潮（A，B）である。学部科目の経済文化をさらに発展させたものであって，人文科学的な視点からの講義も含まれる。おおむね A は総論的，B は各論的であって内容は重ならないように計画されているが，この区別は厳密なものではない。なお，「特別講義 B」は大学院レベルの留学生を対象に，専門分野の文献購読力を養成し，ゼミ発表に必要な日本語力の涵養を目指す。

経済学は一般的には社会科学に属する一分野と考えられているが，学部・大学院を問わず，我々の部門の講義を通じて，社会科学にあっても人文科学的素養や思考は不可欠であり，それが経済学の理解をより深め，また新たな視点からの発想を促すものであると学生が認識してくれることを期待している。